

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：12月レポート

稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
野村亮輔（研究推進部）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apiir.or.jp

ポイント

● 1月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶ JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 2)、**12月の訪日外客総数(推計値)は137万人**と前月(93万4,500人)から大幅増加し、20年2月(108万5,147人)以来、単月で100万人超の水準まで回復した(2019年同月比-45.8%)。一方、同月の日本人出国者数は43万2,100人と前月(37万9,200)から増加したものの、インバウンド需要と比して回復のペースは緩やかである(2019年同月比-74.8%)。

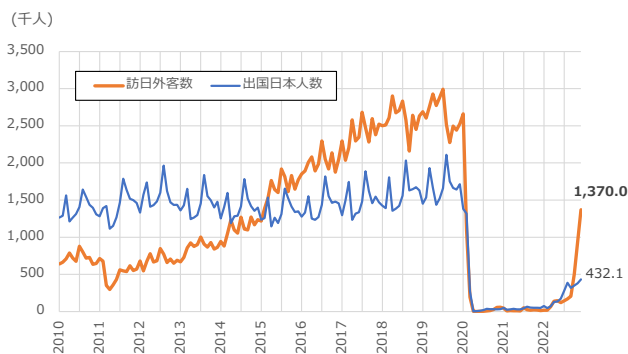
▶ 2022年通年の訪日外客数は年後半の水際対策の大幅緩和も影響し**383万1,897人**と、過去最少となった**前年(24万5,862人)**から大幅増加した(19年比-88.0%)。日本人出国者数も277万1,381人と前年(51万2,200人)から大幅増加した(同-86.2%)。

▶ 訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表2)、**韓国は45万6,100人と最多**(19年同月比+83.9%)となり、2019年月平均(46万人)の水準までほぼ回復した。次いで台湾が17万200人(同-51.1%)、香港が14万1,300人(同-43.4%)、米国が10万9,500人(同-24.2%)、タイが8万3,000人(同-49.7%)と続く。結果、2022年のトップ5は、韓国が101万2,665人、台湾が33万1,105人、米国が32万3,540人、ベトナムが28万4,132人、香港が26万9,282人の順となった。

▶ **目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば、10月は49万8,646人**となった(2019年同月比-80.0%)(図3及び表3)。うち、**観光客は32万6,699人**(同-85.0%)と**前月(4万2,108人)から大幅増加し、20年3月(11万9,645人)以来の値**となった。また、**商用客は8万2,686人**(同-43.2%)、**その他客は8万9,261人**(同-43.2%)であった。

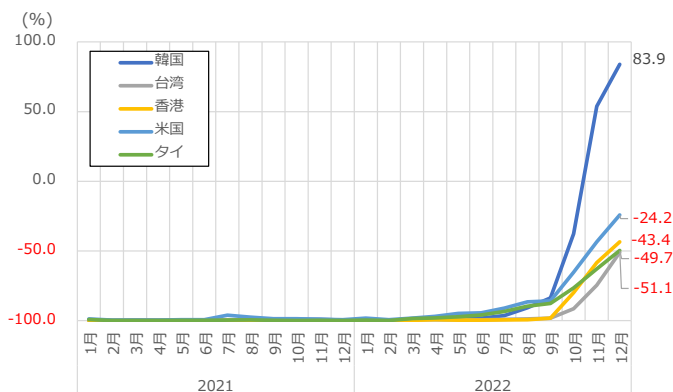
▶ 今後のインバウンドの見通しについては、**訪日中国人客の動向が重要である**。12月の訪日中国人客数は3万3,500人(2019年同月比-95.3%)と低水準にとどまっている(表2参照)。中国では4年ぶりに行動制限のない春節(1月21日~27日)となり、海外旅行も解禁された。また、中国政府は2月6日以降、団体旅行を一部の国・地域に限って認めると発表したが、日本は今のところ含まれていない。このため、訪日外客の回復については依然不確実性が高い。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



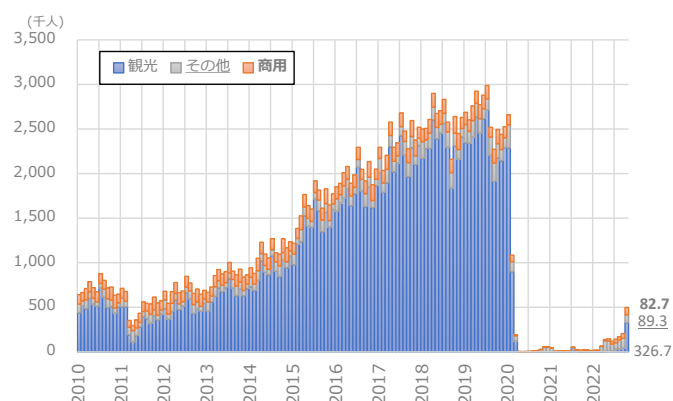
出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 2021年まで確定値、22年1-10月は暫定値、11-12月は推計値

図2 上位5カ国・地域 2019年比の推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図3 目的別訪日外客数推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*本レポートで使用している観光庁「訪日外国人消費動向調査」の統計調査が現在行われていないため、2020年11月公表分レポートより内容を一部変更していることにご留意ください。

トピックス 1

● 12月関西の財貨・サービス貿易及び 11月のサービス産業動向

▶ 関西 12月の輸出は前年同月比+9.5%と 22 カ月連続の増加だが、前月(同+18.9%)から減速した(図 4)。また、輸入は同+16.4%と 23 カ月連続の増加だが、エネルギー価格の落ち着きもあり前月(同+23.9%)から減速。輸出入の伸びが前月からいずれも減速したが、後者の下落幅が前者の下落幅を上回ったため、関西の貿易収支は+2,090 億円と 4 カ月連続の黒字となった(前年同月比-26.6%)。2022 年通年では、輸出は前年比+16.3%、輸入は同+34.1%といずれも 2 年連続のプラス。前年から輸出が減速し、輸入が加速した結果、貿易収支は 8 年連続の黒字(+8,246 億円)となったが、黒字幅は同-73.3%と 3 年ぶりに縮小した。

▶ 対中貿易動向をみると(図 5)、関西 12月の対中輸出は前年同月比+0.2%と 8 カ月連続の増加だが、中国経済減速の影響もあり前月(同+5.4%)から減速した。また、対中輸入は同+4.4%と 8 カ月連続の増加だが、前月(同+20.3%)から減速。2022 年通年では、輸出は前年比+7.7%と 3 年連続の増加だが、伸びは前年(同+18.4%)から減速。一方、輸入は同+22.3%と 2 年連続で増加し、前年(同+15.7%)から加速した。結果、貿易収支は-8,811 億円の赤字となり、赤字幅は同+531.5%拡大した(前年：同-36.2%)。

▶ 12月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は 33 万 1,249 人と前月(24 万 7,090 人)から増加した。一方、日本人出国者数は 6 万 4,060 人と前月(5 万 1,940 人)から増加。2019 年同月比で見れば、前者は-48.6%と前月(同-63.1%)から減少幅は大幅に縮小した一方、後者は同-81.4%であり、依然回復が遅れている。2022 年通年では、訪日外客数は 88 万 5,472 人(19 年比-89.4%)、日本人出国者数は 32 万 4,863 人(同-96.1%)となった。円安の影響もあり、インバウンド需要は回復しつつあるが、アウトバウンド需要は依然低調である。

▶ 11月のサービス業の活動は感染再拡大の影響もあり小幅悪化。サービス業の生産活動を示す第 3 次産業活動指数(季節調整済み：2015 年平均=100)をみれば(図 7)、11月は 100.0 で前月比-0.2%小幅低下し、2 カ月ぶりのマイナス(前月：同+0.5%)。一方、対面型サービス業指数*は 91.9 と同+0.2%小幅上昇し、2 カ月連続のプラスとなった(前月：同+1.8%)。

▶ 観光関連指数**(2015 年平均=100)は、84.1 と前月比-1.0%低下し、4 カ月ぶりのマイナス(前月：同+3.1%)(図 7)。旅行業(同+13.9%、3 カ月連続)や宿泊業(同+8.9%、2 カ月ぶり)は上昇した一方で、飲食店、飲食サービス業(同-8.3%)が大幅低下した。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第 3 次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図 4 関西 対世界貿易の推移

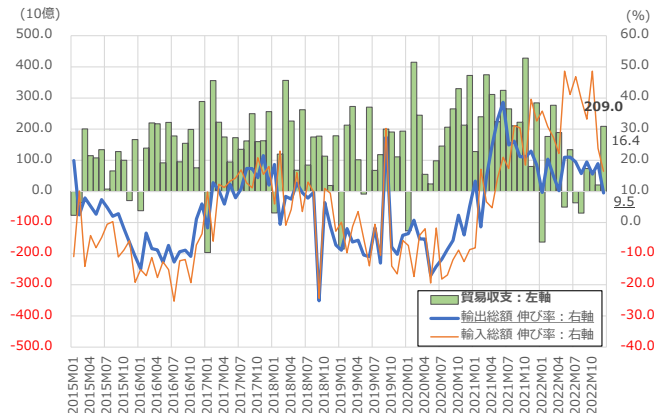
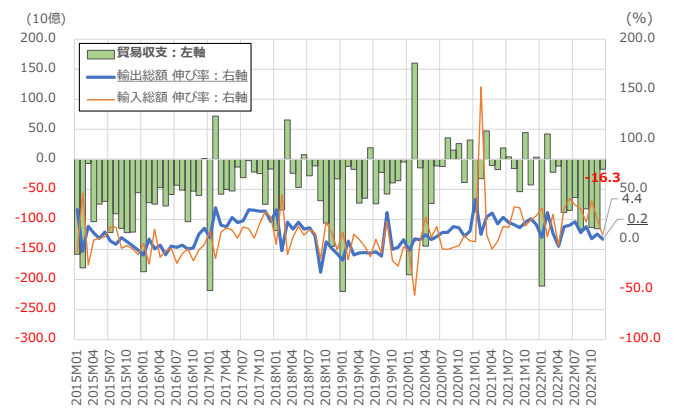
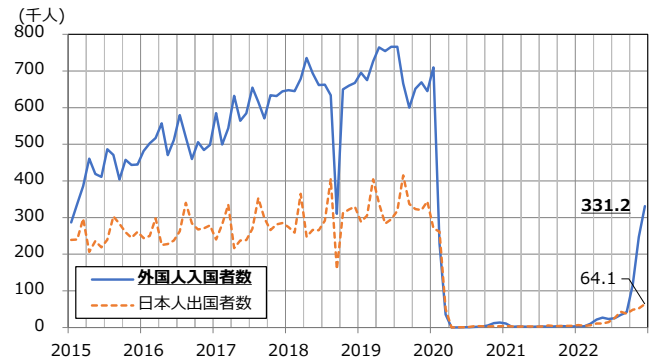


図 5 関西 対中貿易の推移



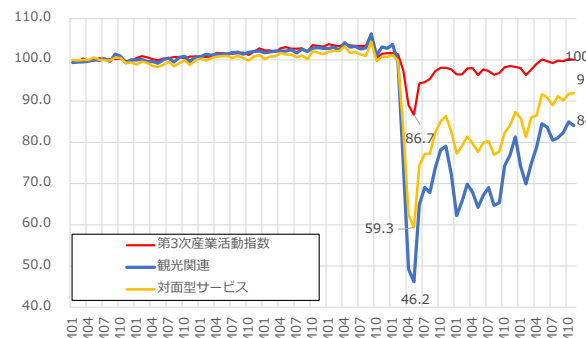
出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図 6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2022 年 12 月値は速報値

図 7 観光関連 対面型サービス 第 3 次産業：2015 年=100



出所：経済産業省「第 3 次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

● 10月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、10月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**8,708.3千人泊**、2019年同月比では-16.0%となった(表1)。全国旅行支援事業の開始と水際対策の大幅緩和もあり、減少幅は前月(同-24.2%)から縮小した。

▶日本人延べ宿泊者数は**8,152.4千人泊**であった。2019年同月比では**+10.8%**となり、コロナ禍前を上回った(前月：同-0.8%)(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府が2,800.8千人泊、京都府が2,047.9千人泊、兵庫県が1,097.6千人泊、三重県が625.2千人泊、和歌山県が366.5千人泊、滋賀県が352.8千人泊、福井県が274.5千人泊、奈良県が233.8千人泊、鳥取県が192.8千人泊、徳島県が160.4千人泊であった。19年同月比をみれば、**京都府が5カ月連続のプラス**となり、**大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県**はそれぞれ前月のマイナスから**プラスに転じた**(表1参照)。

▶外国人延べ宿泊者数は**555.9千人泊**であった。2019年同月比では**-81.5%**と減少幅は前月(同-93.6%)から大幅縮小した(表1及び図9)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府が291.0千人泊、京都府が216.3千人泊、兵庫県が15.1千人泊、三重県が11.9千人泊、和歌山県が9.2千人泊、滋賀県が3.8千人泊、奈良県が3.1千人泊、徳島県が2.4千人泊、福井県が1.7千人泊、鳥取県が1.5千人泊であった。水際対策の大幅緩和により、大阪府、京都府を中心に外国人宿泊者数が回復している。

▶関西2府8県延べ宿泊者を居住地別で見ると(図10)、**府県内の延べ宿泊者数は1,652.4千人泊**となった(2019年同月比+35.7%)。伸びは**13カ月連続のプラス**。また、2府8県以外からの宿泊者は6,795.4千人泊であった(同-20.6%)。前月(同-30.6%)からマイナス幅は縮小した。

▶11月の全国延べ宿泊者数(全体、1次速報ベース)は45,700千人泊、2019年同月比-8.0%と減少幅は前月(同-11.6%)から縮小。うち、日本人宿泊者は41,696千人泊(同+2.7%)、外国人宿泊者は4,004千人泊(同-55.8%)となった。日本人宿泊者は2カ月連続で増加し、外国人宿泊者の減少幅は前月(同-79.4%)から大幅縮小した。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

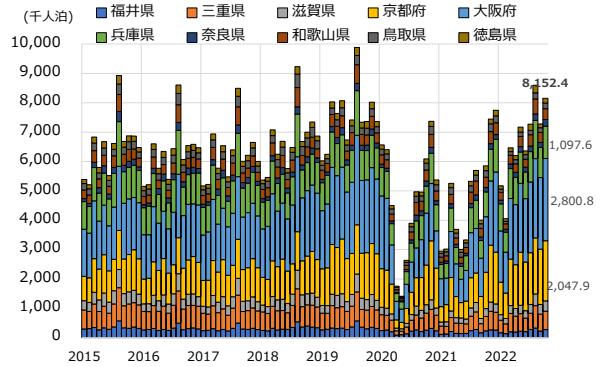


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

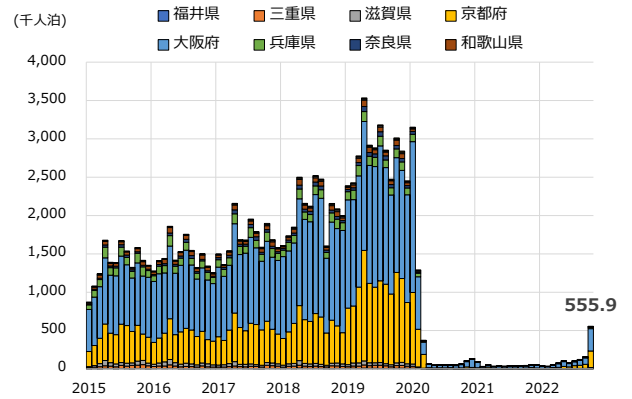
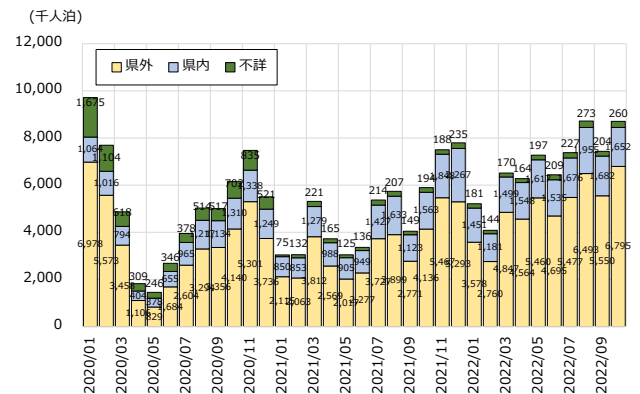


図10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：10月

2022年10月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数: (千人泊)	伸び率: 21年比(%)	伸び率: 19年比(%)	延べ宿泊者数: (千人泊)	伸び率: 21年比(%)	伸び率: 19年比(%)	延べ宿泊者数: (千人泊)	伸び率: 21年比(%)	伸び率: 19年比(%)
福井県	276.2	18.4	-10.5	274.5	18.2	-8.7	1.7	62.7	-79.3
三重県	637.1	30.1	-5.6	625.2	28.0	-2.1	11.9	817.7	-66.8
滋賀県	356.7	32.4	-9.3	352.8	31.2	-1.6	3.8	683.7	-88.9
京都府	2,264.2	81.6	-18.5	2,047.9	65.6	28.1	216.3	2,069.3	-81.7
大阪府	3,091.8	61.4	-22.2	2,800.8	48.2	13.0	291.0	1,062.0	-80.6
兵庫県	1,112.6	30.9	0.0	1,097.6	29.7	10.0	15.1	289.1	-86.9
奈良県	236.9	56.6	2.7	233.8	55.3	25.8	3.1	310.7	-93.1
和歌山県	375.7	6.8	-10.1	366.5	4.5	5.4	9.2	890.3	-86.8
鳥取県	194.3	-13.0	-19.6	192.8	-13.5	-15.3	1.5	234.1	-89.6
徳島県	162.9	0.3	-32.5	160.4	-1.0	-29.4	2.4	462.8	-82.5
関西2府4県	7,437.9	55.4	-16.5	6,899.5	45.4	15.6	538.4	1,211.6	-81.7
関西2府8県	8,708.3	47.8	-16.0	8,152.4	39.4	10.8	555.9	1,156.6	-81.5
全国	44,271.4	38.0	-11.6	42,153.1	32.7	5.9	2,118.3	579.8	-79.4

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8~10及び表1)

表2 2022年12月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	12月	12月		1-12月	1-12月	
総数	2,526,387	1,370,000	-45.8	31,882,049	3,831,900	-88.0
総数(韓国・その他除く)	2,188,107	864,200	-60.5	25,083,459	2,482,900	-90.1
韓国	247,959	456,100	83.9	5,584,597	1,012,700	-81.9
中国	710,234	33,500	-95.3	9,594,394	189,000	-98.0
台湾	348,269	170,200	-51.1	4,890,602	331,100	-93.2
香港	249,642	141,300	-43.4	2,290,792	269,300	-88.2
タイ	164,936	83,000	-49.7	1,318,977	198,100	-85.0
シンガポール	100,376	67,000	-33.3	492,252	131,900	-73.2
マレーシア	78,250	36,200	-53.7	501,592	74,000	-85.2
インドネシア	59,203	34,400	-41.9	412,779	119,800	-71.0
フィリピン	81,542	40,000	-50.9	613,114	126,900	-79.3
ベトナム	30,606	28,200	-7.9	495,051	284,100	-42.6
インド	11,739	7,400	-37.0	175,896	54,300	-69.1
豪州	72,653	41,800	-42.5	621,771	88,600	-85.8
米国	144,498	109,500	-24.2	1,723,861	323,500	-81.2
カナダ	35,132	20,600	-41.4	375,262	55,900	-85.1
メキシコ	6,499	2,500	-61.5	71,745	9,100	-87.3
英国	27,750	15,300	-44.9	424,279	57,500	-86.4
フランス	20,261	10,800	-46.7	336,333	52,800	-84.3
ドイツ	13,639	7,700	-43.5	236,544	45,700	-80.7
イタリア	11,196	4,900	-56.2	162,769	23,600	-85.5
ロシア	7,295	3,500	-52.0	130,243	15,900	-87.8
スペイン	8,833	1,600	-81.9	120,043	10,400	-91.3
中東地域	5,554	4,800	-13.6	95,160	21,400	-77.5
その他	90,321	49,700	-45.0	1,213,993	336,300	-72.3

表3 2022年10月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)	2019年	2022年	伸率(%)
	10月	10月		10月	10月		10月	10月		10月		
総数	2,496,568	498,646	-80.0	2,177,382	326,699	-85.0	162,020	82,686	-49.0	157,166	89,261	-43.2
韓国	197,281	122,959	-37.7	155,972	100,470	-35.6	23,643	14,970	-36.7	17,666	7,519	-57.4
中国	730,631	21,498	-97.1	645,903	3,964	-99.4	31,428	4,529	-85.6	53,300	13,005	-75.6
台湾	413,701	35,028	-91.5	395,168	27,889	-92.9	11,103	4,677	-57.9	7,430	2,462	-66.9
香港	180,562	36,242	-79.9	176,031	34,216	-80.6	3,356	1,300	-61.3	1,175	726	-38.2
タイ	145,333	34,115	-76.5	138,912	29,617	-78.7	3,710	2,661	-28.3	2,711	1,837	-32.2
シンガポール	41,937	14,336	-65.8	38,030	11,457	-69.9	3,395	2,653	-21.9	512	226	-55.9
マレーシア	48,864	8,773	-82.0	45,071	6,156	-86.3	2,763	1,867	-32.4	1,030	750	-27.2
インドネシア	34,094	11,085	-67.5	26,605	4,105	-84.6	3,137	1,501	-52.2	4,352	5,479	25.9
フィリピン	64,690	14,775	-77.2	57,161	9,283	-83.8	2,915	1,505	-48.4	4,614	3,987	-13.6
ベトナム	46,510	30,811	-33.8	16,131	3,650	-77.4	4,033	2,183	-45.9	26,346	24,978	-5.2
インド	13,929	6,006	-56.9	6,068	1,076	-82.3	5,244	2,742	-47.7	2,617	2,188	-16.4
豪州	51,563	11,677	-77.4	46,906	8,498	-81.9	3,547	2,521	-28.9	1,110	658	-40.7
米国	153,363	53,242	-65.3	127,454	37,072	-70.9	20,501	12,944	-36.9	5,408	3,226	-40.3
カナダ	37,667	9,847	-73.9	34,305	8,089	-76.4	2,365	1,265	-46.5	997	493	-50.6
メキシコ	7,385	1,951	-73.6	6,702	1,438	-78.5	467	374	-19.9	216	139	-35.6
英国	68,401	10,309	-84.9	59,330	5,433	-90.8	6,788	3,162	-53.4	2,283	1,714	-24.9
フランス	39,457	11,074	-71.9	33,306	7,019	-78.9	4,367	2,761	-36.8	1,784	1,294	-27.5
ドイツ	26,276	8,943	-66.0	19,780	4,350	-78.0	5,264	3,718	-29.4	1,232	875	-29.0
イタリア	14,731	4,505	-69.4	11,088	2,031	-81.7	2,477	1,703	-31.2	1,166	771	-33.9
ロシア	14,348	1,580	-89.0	11,262	628	-94.4	2,299	555	-75.9	787	397	-49.6
スペイン	13,739	2,819	-79.5	11,720	1,640	-86.0	1,069	803	-24.9	950	376	-60.4
中東地域	11,955	4,085	-65.8	9,873	2,803	-71.6	1,244	909	-26.9	838	373	-55.5
その他	140,151	42,986	-99.7	104,604	15,815	-99.8	16,905	11,383	-99.3	18,642	15,788	-99.2

注) 目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。
出所: 日本政府観光局(JNTO)、2023年1月18日付より筆者加工